

文化プログラムの推進に向けた取組

2020年は、文化プログラムを通じて日本の文化を世界に発信する絶好の機会。この機会に、2020年以降を見据え、日本の強みである地域性豊かで多様性に富んだ文化を活かし、成熟社会にふさわしい次世代に誇れるレガシーを創り出すことが求められている。こうした観点から、内閣官房においては、①オリパラ基本方針推進調査、②beyond2020プログラムを推進しているところ。

①オリパラ基本方針推進調査

大会の機運醸成に向けて特別に実施される要素(多言語対応・バリアフリー対応等)を含む文化イベントについて、試行プロジェクトを実施することにより、その効果と課題を分析。

- ・平成28年度当初予算3.0億円、補正予算3.0億円の内数
- ・一件1000万円上限
- ・当初予算 27件採択、補正予算 5件採択
- ・採択案件の分野:相撲、流鏝馬、花火、落語、ファッション、和食、障害者芸術等

【採択案件の例】

(事業名)大相撲beyond2020場所

(実施時期)10月4日(火)

(場所)両国国技館

(概要)日本文化の体現者たる「相撲」の国際発信力や障がい者のアクセシビリティを強化するべく、両国国技館の枡席を外国人客で埋め尽くし、外国語対応が可能な和装スタッフによる対応、英語による解説など配した一日特設イベントを行う。プロジェクトを通じ多様性に応じた導線のあり方、座席位置、案内等の運営検討、実証的データを整備するとともに、日本文化や大相撲の魅力を国内外に発信し、機運醸成につなげる。



②beyond2020プログラム

2020年以降を見据え、レガシー創出に資する文化プログラムを「beyond2020プログラム」として展開し、多様な主体が実施するアクションを認定。また、認定されたアクションを総覧できる「beyond2020カルチャーカレンダー」(仮称)を制作し、我が国の多様な文化活動を発信。

【参考】組織委員会は、大会の機運醸成に向けた参画促進を図るため、「東京2020公認プログラム」及び「東京2020応援プログラム」を開始し、スポンサー企業や非営利団体等が実施するアクションを認証。

		東京2020公認プログラム	東京2020応援プログラム	beyond2020
イベント・事業等実施主体	スポンサー企業	○	—	○
	国	○	—	○
	開催都市 (東京都、都内区市町村)	○	—	○
	会場所在 地方自治体	○	—	○
	地方自治体 (会場所在地方自治体以外)		○	○
	非営利団体 (NPO、NGO等)		○	○
	ノンスポンサー企業			○

文化プログラムの直近の取組

①オリパラ基本方針推進調査

【例】

(事業名)大相撲beyond2020場所

(取組の詳細)

大使館や大学を通じ、約150カ国の外国人を招待。子供相撲はインターナショナルスクールの子供達が参加。場内放送を、日本語・英語の2か国語で実施すると共に、パンフレットも日英併記したものを配布。



手話による説明やモニターを設置。聴覚障害者の方は聴導犬とともに観戦。



②beyond2020プログラム

モデル事業としてふさわしいと考えられる事業を、一部先行プログラムとして実施。

【例】

(事業名)東北六魂祭パレード

(実施時期)11月20日(日)

(場所)新虎通り

(概要)

日本の伝統芸能やコンテンツ、東京・東北の観光情報、食文化等を披露することで、東北復興と魅力ある日本の文化を発信する「東京新虎まつり」のメインイベントとして、東北の祭りや東北各地のローカルキャラクターを新虎通りに一堂に集め、「東北六魂祭パレード」を実施。東北復興を掲げ、東京から東北への導線を創出するとともに、キャラクター等の日本のコンテンツを披露。祭りの説明等を日本語・英語の2か国語で実施すると共に、パンフレットも日英併記したものを配布。



オリンピック・パラリンピック基本方針推進調査
文化を通じた機運醸成試行プロジェクト 三次採択案件概要(全5件)

[分野: 伝統芸能・工芸]

- ① プロジェクト名 : 世界遺産 薬師寺 健康祈願バリアフリーイベントの開催
 実施団体 : 共栄印刷株式会社
 実施時期 : 2017年1月～2月。イベント実施は1月29日(日)
 場所 : 法相宗大本山薬師寺(奈良県)
 プロジェクトタイプ : 多言語対応、バリアフリー対応
 概要 : 世界遺産薬師寺を舞台に、健康祈願、精進料理(和の健康食)体験、および盲目の和太鼓奏者による演奏を行い、健常者、障がい者の隔てなく、外国人も含めて、大勢が参加して楽しめるイベントの開催手法と効果の実証実験を行う。2020年には、障がいを問わず参加可能なイベントを大々的に実施し、他の世界遺産施設へノウハウを広げ、観光客に優しい歴史的建造物があることを国内外に広げ観光客増加につなげる。
 効果・検証方法 : イベント来場者に対するアンケート調査の実施(参加前の期待と参加後の感想との比較)。また、運営スタッフによる改善点(座席、来場者の導線、運営体制、必要な専門スタッフ等)の洗い出しを行う。

[分野: 地域文化発信]

- ② プロジェクト名 : 「外国人にもわかる“和の住まい文化劇場”
 —大阪くらしの今昔館と吉田家住宅で紡ぐ和の住まい文化 体感 to 共感—」
 実施団体 : 大阪市住宅供給公社
 実施時期 : 2017年2月4日(土)～8日(水)
 場所 : 大阪市北区天満地域(大阪くらしの今昔館および文化財住宅「吉田家」)
 プロジェクトタイプ : 多言語対応
 概要 : 歴史的な住まい空間を舞台に、町人の暮らしぶりを描く参加型の演劇シーン、多言語対応のICTサブシステム、衣・食・住・遊・学の暮らし体験プログラムをセットで展開。和の生活文化を外国人に伝える際の問題点や相互交流のあり方を、演劇手法を導入して実践的に検証し、2020年には本プロジェクトを通年事業として実施するなど、異文化コミュニケーションの共創と深化を目指す。
 効果・検証方法 : 参加型劇場の外国人体験者からの意見・コメント、総括シンポジウムを通じて、異文化コミュニケーションの課題抽出と解決策の検証を行う。更にその結果を全国の文化施設のインバウンド対応に示唆を与える情報提供を行う。

[分野:食文化]

- ③ プロジェクト名 : 「和食でおもてなし！」(和食文化の発信・伝達)モデル構築プロジェクト
実施団体 : 一般社団法人和食文化国民会議
実施時期 : 12月末～2月末
(12月:イベント企画、1月:イベント準備、実施 2月:検証・レポート作成)
場所 : 東京
プロジェクトタイプ : 多言語対応、バリアフリー対応
概要 : 和食文化国民会議の会員(学会・研究者・地域サークル・調理師・メーカー・情報サイト業者・生産者等450を超える企業、団体、個人)が、在日大使館員や在日外国プレス、国内外アスリートの家族、障がい者に「和食」の基本情報である食材や調理方法等を、調理実演を含む体験型講座で伝達するイベントを実施。イベントの成果を国産農産物を使用した和食文化普及のための体験プログラム及びマニュアルにとりまとめる。2020年には「和食の語り部」が案内する大型和食文化イベントを全国で実施する。
- 効果・検証方法 : 和食文化に関する講座にて、参加者(外国人、障害者、アスリート)、講師・スタッフへのアンケートを通じ、課題抽出、改善、和食文化プログラムとして取りまとめる。次年度以降に国内のインターナショナルスクール、日本語学校、障害者、ホストタウン、わが国在外公館等での多言語ツールやマニュアルを活用いただき、WEB、SNSを通じた情報発信を行う。

[分野:現代アーツ・現代パフォーミングアーツ]

- ④ プロジェクト名 : MEDIA AMBITION TOKYO デジタリースケープ
実施団体 : 公益財団法人 画像情報教育振興協会(CG-ARTS)
実施時期 : 2017年2月11日(土)
場所 : 六本木ヒルズ 森タワー52階展望台 東京シティビュー(東京都港区六本木)
プロジェクトタイプ : 多言語対応、バリアフリー対応
概要 : 国内外の気鋭アーティストを招き、テクノロジーとアートを切り口にライブパフォーマンスとトークセッションを実施。テクノロジーを介してあらゆる人が楽しめる未来のエンターテインメントのありかたを実験・提唱する特別なパフォーマンスを行う。2020年にはパーソナルデバイスやAIを活用した円滑な多言語コミュニケーションなど、テクノロジーを活用したツールの試行実現を目指す。
- 効果・検証方法 : プロジェクト実施後に各界の有識者との意見交換を実施するとともに、PR効果等を分析。また、参加アーティストや有識者インタビューをウェブサイトでアーカイブ(日英二ヶ国語)として公開し、アクセス状況等を把握する。

[分野: 障害者・バリアフリー関連]

- ⑤ プロジェクト名 : 誰もが楽しめる自由な芸術祭
「ユニバーサルアートフェスティバルinすみだ」
- 実施団体 : 中日新聞社 (HEART & DESIGN FOR ALL)
- 実施時期 : 2017年2月4日(土)、5日(日)の2日間開催
- 場所 : 東京都 墨田区
- プロジェクトタイプ : バリアフリー対応
- 概要 : 日本国内外で活躍する障がいを持つ文化人の保護者による講演会をはじめ、文化・芸術面で活動する障がい者団体の取り組み紹介する展示等、幅広い層に対して文化活動を体験する機会を設けるイベントを実施。これらを新聞紙面などで情報発信をすることで文化活動の更なる活性化や心のバリアフリー推進を図る。パラリンピック開催に向けてユニバーサルマナーの知識を習得したボランティアの育成の強化にも努めていく。
- 効果・検証方法 : イベント来場者に対するアンケート調査および新聞の読者アンケート調査(イベント告知前と後の比較)を実施。